



春日小だより

令和8年2月27日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 臨時号

令和7年度 練馬区立春日小学校 学校評価結果について

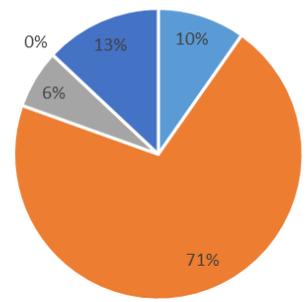
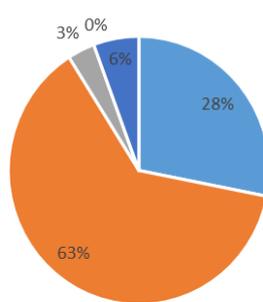
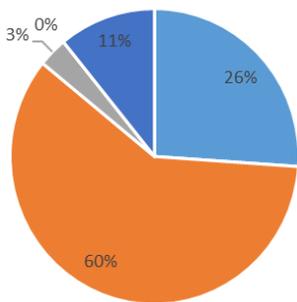
校長 後藤 京子

「令和7年度 教育活動についてのアンケート」にご協力いただきありがとうございました。春日小学校では、教育活動の改善・充実のために「学校評価」を行っています。「学校評価」では、保護者の皆様・児童のアンケート、教職員の自己評価を行い、日常の観察、点検等総合的に検討し学校の内部評価を実施します。その後学校評価委員会（学校評議員の兼務）でご意見をいただき「学校関係者評価」を実施しました。学校評価の結果から分かった成果や課題を十分に検討し、令和8年度の教育活動に活かしていきたいと思っております。

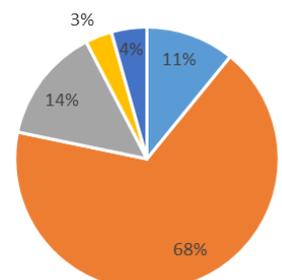
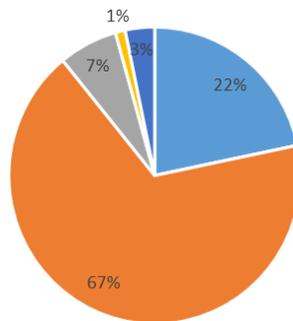
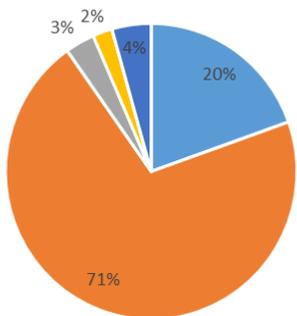
■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

1 保護者のアンケート結果

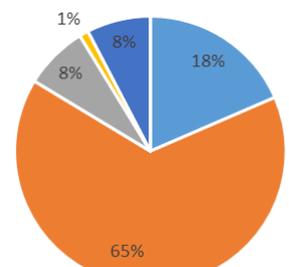
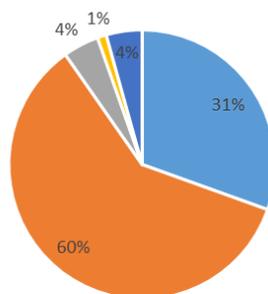
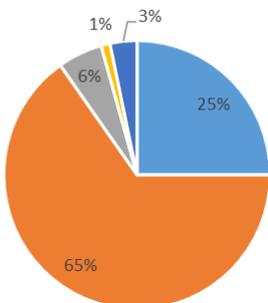
- (1) 学校では、わかりやすい授業を行っている。
- (2) 算数で、習熟度別授業（3～6年）や2人の教師による授業（1.2年）を行うことで、学習がわかりやすくなっている。
- (3) 学校では授業の約束が守られている。



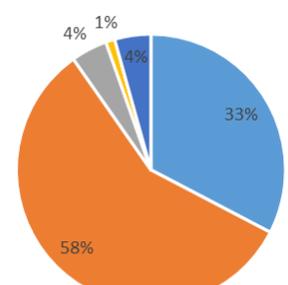
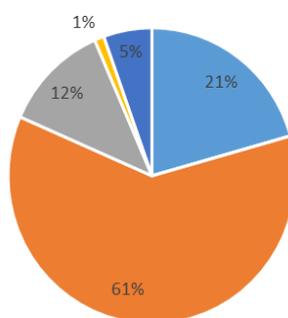
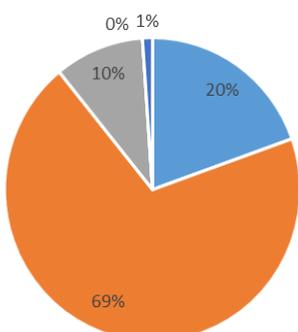
- (4) 学校では、工夫した授業が行われている。
- (5) 子どもは授業を通して基礎的な力を身に付けている。
- (6) ICT機器（タブレット、電子黒板等）を活用して、工夫した授業が行われている。



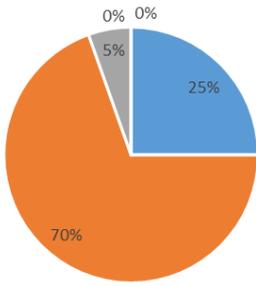
- (7) 学校では、日々の授業の成果を見取り、児童への支援をし、授業をよりよくしようとしている。
- (8) 学校では発表や友達との意見交換等により、考えを深め、主体的に学習に取り組めるようにしている。
- (9) 読書活動の充実を図り、感性を磨き表現力を高めている。



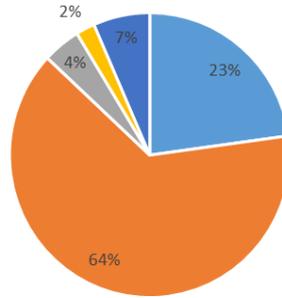
- (10) 子どもは基本的な生活習慣を身に付けている。
- (11) 子どもは、あいさつができています。
- (12) 子どもは、学校や学級の一員として所属感や存在感を感じながら生活している。



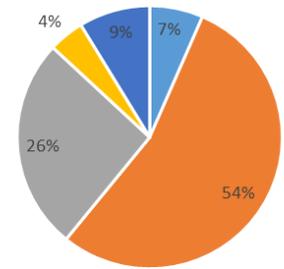
(13) 子どもに、まわりの人に対する
思いやりや親切な心が育っている。



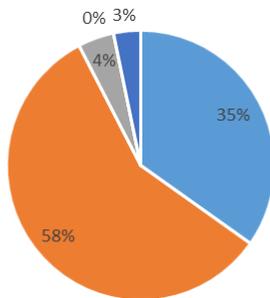
(14) 子ども一人一人を大切に指導が行われている。



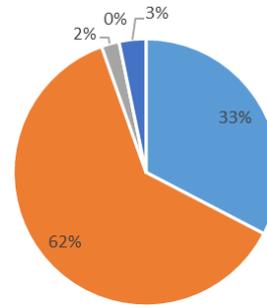
(15) 子どもは、将来の夢を考えたり、
すすんで仕事に取り組んだりしている。



(16) 学校はホームページや学校公開を通して、
学校や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている。



(17) 学校は、家庭や地域、外部の人材と
連携した教育活動を積極的に取り組んでいる。



【考 察】

全17項目の内、8項目で肯定的意見（とてもそう思う・そう思う）が90%を超えました。特に項目（13）と（17）は95%と高い評価をいただきました。学校では様々な取組を行っていますが、その中心にあるのは日々の授業です。授業を充実させ、心身ともに成長させていけるよう、今後も精進していきます。また、学校内だけでなく、家庭や地域とつながり、協同した授業を行っていけるよう計画を立てていきたいと思えます。

また、昨年度と比較したときに、「わからない」の数値が、全体的に減少しました。一昨年度から昨年度にかけて「わからない」の数値が上昇し、どのようにして学校の教育活動を伝えていこうか、その工夫を課題として取り組んできました。今回、その成果が出つつあるのではないかと考えています。学校ホームページをはじめとした積極的な情報発信、家庭・地域とつながる授業の実践等、日常からできることを模索しています。学校公開の日数は減りましたが、今後も日常からのつながりを大切にする学校教育を実践していきます。

今回のアンケートで、否定的意見が10%を超えた項目が4つありました。それは、次年度に向けた課題ととらえています。項目（6）のICT機器の利活用は、毎年のように課題となっています。着実に活用場面は増えていますが、何が正解かは大変悩ましいところです。低学年でも便利に活用できる機能もありますが、児童用タブレットの活用では、文字入力のに時間に手間取り、本来調べたい内容に行き着く前に困難を感じてしまうような場面もあります。他校での実践なども情報収集して、より良い利活用を目指します。項目（10）と（11）は、基本部分が同じことと考えられます。挨拶は、年々指導が難しくなっていると感じています。人間同士の関係性が希薄になり、下手に声掛けをしようものなら不審者扱いされてしまうような事例もあります。それでもなお、挨拶は人と人をつなぐ心の架け橋だととらえています。挨拶に限らず、早寝早起き・1日3食・学びと遊びのバランスなど、生活する上で大切なことを、改めて見直していきたいです。そして、項目（15）。これは昨年度も低い数値が出ました。改めて、ぜひご家庭でも話し合ってみてください。大人が先を示すのではなく、子供自身が様々な考えをもてるような会話や環境づくりが大切です。保護者の皆様や地域にいる大人たちが、ご自分の経験値なども交えながら、気軽に子供たちと将来のことを話すような場が増えることがとても有効ではないかと思えます。本校でも、昨年度・今年度と2年間にわたり、校内研究の研究主題を「今や未来を自分事として考えられる児童の育成～E S D（持続可能な開発のための教育）の視点に立った主体的・協働的な学びを通して～」として、現在から未来まで見据えた児童の育成に取り組んできました。変化の激しい、予測困難な時代ですが、児童が将来に夢や希望をもてるような授業実践を目指していきます。

【保護者の皆様の自由記述より】

宿題がわからない時に学校でどう教わっているかが分からないので、どう教えればよいか悩む。どこまで理解しているかわからない。
→ご家庭でのご指導、ありがとうございます。教科書を見るなどしても、指導方法で迷ったときは、担任に確認していただくのがよいと思います。どのようなねらいで指導しているのか、直接情報交換をすることができます。

様々な子がいるので、理解できている子、そうでない子を先生がきちんと見極め、声掛けやフォローをすることが大切だと考える。
→おっしゃる通りです。全体での一斉指導だけでなく個別の指導時間を設け、極力取り残す子が出ないように工夫しています。しかし、学校の時間も有限なので、ご家庭と連携しながらつまずきを取り除いていけるようにしたいです。ご協力をお願いいたします。

毎日の宿題が、続けることで家庭学習の習慣化の礎になってきているように感じます。
→宿題をきっかけに、家庭学習の習慣が定着すれば、それは何よりのことです。最終的には、宿題ではなくても、自分で学習すべきものを見付けられることが大切なので、それを目指していきましょう。

タブレットを使うとことで、便利にもなっているが、使い方を間違っている児童(授業中にゲーム、クラスメートの悪口など)も見受けられるので、アクセス制限や使えない様にロックをかけるなどの工夫が必要だと感じる。
→ICTが進化すれば、利便性が広がる反面、様々な間違った使用方法も現れます。区でもアクセス制限をかけたり、学校でもルールやマナーの指導をしたりしていますが、ご家庭でもお子様とよく話していただき、最低限のルールやマナーについて共通理解をもっていただければありがたいです。

漢字、計算のしっかりとした定着を先ずはお願いしたいです。一方で、仲間と取り組むと組織となり多大なる目標を達成することができることなどを体験して欲しいです。また、味噌作りなど、普段体験できないようなことが出来て、子供も嬉しそうですし、親としても誇りに思います。今後も心弾むような行事計画をお願いします。
→学習は幅広くとらえることが大切です。最低限の知識・技能がないと学びの下地はできませんが、知識・技能だけが充実しても、本当の学力とは言えません。思考する力や表現する力、主体的に学びに取り組む態度など、すべてが複合して、初めて本当の学力となります。そのゴールを目指して、指導計画などを工夫してまいります。

読書に関しては持ち帰りがないため、どのくらい読む習慣やそれからなにか得られているか正直わかりません。あいさつ運動は先日行われましたが、本人の性格上なかなか大きな声で言うことができているのですが、学校に伺った際には色んな生徒さんがあいさつしてくれるのでとても爽やかな気持ちになれました。
→学校では、週2～3日ですが学校司書の先生もいらしてくださり、様々な本の紹介や授業を行っています。ぜひ、学校でどのような取組をしているのか、お子様から聞いてみてください。学校も、HPなどを通して、活動を伝えていけるよう努力します。挨拶は、大きな課題の1つでもあります。日常から挨拶をする習慣が失われつつあります。少なくとも、地域・学校でつながっている人たちは自然と挨拶ができることを目指し、学校も「あいさつ運動」などを実施しています。ご家庭でも、挨拶の重要性についてお話をさせていただけるとありがたいです。

正解がない問題が苦手な子供だが、少しでも書いてみようという気持ちが育っているように見えありがたく感じます。
→算数の問題のように、正解が決まっているものもあります。しかし、広い目で見れば、世の中の問題のほとんどは正解がない問いばかりです。算数も、正解に行きつくまでの道筋は無数にあり、どれが最善かは意見が分かります。大切なのは、問題を自分事として考え、自分なりの結論が出せることだと思います。この姿勢を一貫して育てていきたいです。

好きな本を選んでいるので、いつも同じ様な物ばかりになっている。児童に対しての声掛けが不十分と感じる。
→基本的に読書は、自分の興味があるものから広がっていきます。無理に勧めても、本人が興味を示さないものは定着しません。本人が様々な種類の本に興味を示せるように、学校でも、春日町図書館と協力して「本の探検ラリー」を行ったり、おすすめの本を紹介しあう「読書郵便」を行ったりしています。保護者の皆様も、公共図書館や街の本屋さん等で、お子様の興味を広げるような声掛けなどをしていただけるとありがたいです。

委員会の委員長をさせていただき、周りの人のことを考えたり、どのようにしたら皆が参加出来るか考えるようになったと思います。苦手なことも多いですが、皆と一緒にすることで少しずつ参加できているようです。
→委員長という大役を受けているだけで素晴らしいことです。小学校では、すべてを成功させることは求めていません。まずはやってみる。うまくいかないことや失敗したことがあっても、そこから気付いたことや学んだことがあれば、それが何よりの成果です。ぜひ、ご家庭でも励ましと称賛の声掛けをお願いいたします。

城址公園が出来たことで外で大声を出したりボールを追いかけて遊べるのは心にも身体にもとても良い影響があるかと思えます。が、結局スマホやゲームを外でもしていたりする子が多いのも事実なのでそのバランスが取れると良いですね。
→城址公園のように、比較的自由に遊びができる公園が多くあれば、子供たちも外での遊びを思う存分楽しめると思います。しかし、公園によっては、ボール遊びの禁止や、声がうるさい等のクレームがあり、思うように遊べない環境もあります。子供がなぜ外でもスマホやゲームをやるのか、大人側も反省すべき点があると思います。

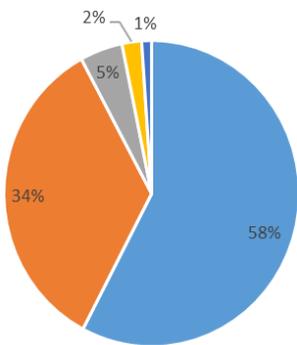
最近の子供の様子を見ていると毎日楽しそうに登校しています。充実した毎日が送れているのだろうと想像します。
→ありがとうございます。その姿がいつまでも見られるよう、私たちも努力を続けます。もし、何かおかしい様子があれば、遠慮なくお伝えください。ともに支えていきましょう。

町探検やゲストティーチャーなど、子供もとても楽しみにしていますし、親では教えてあげられない貴重な体験などさせていただいているので、とても素敵な取り組みではないかと思えます。今後もぜひ続けていっていただきたいです。
→春日小では、地域の皆様をはじめ、幅広い方々がゲストティーチャーとして授業に参加してくださっています。また、町探検でも、協力してくださる地域の皆様がたくさんいます。この恵まれた地域を生かして、これからも多様な活動を考えていきます。ありがとうございます。

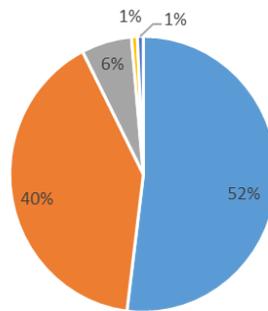
先生にも違いがあるのは個性が良い事ですが令和の時代に合った指導は横並びでも良いので余り差が無い方が良いです。低学年の生徒を理詰めで注意する様な事も子供には恐怖を感じたりしてしまうので良い方法だとは思えません。
→不安を与えてしまい、申し訳ございません。具体的な場面が分からないので難しいですが、児童が言われていることをしっかりと受け止められるような指導を考えていきます。教員が目指すものは児童の健やかな成長で、そこに差はありません。しかし、教員によって指導方法に多少の差があることはご理解ください。多様な教員がいることで、多様な児童に指導ができています。低学年に対しても、頭ごなしに叱るのではなく、どうしていけなかったかを考えさせるような指導を心掛けています。それが「理詰め」ととらえられない程度に、丁寧な指導を行っていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

2 児童のアンケート結果

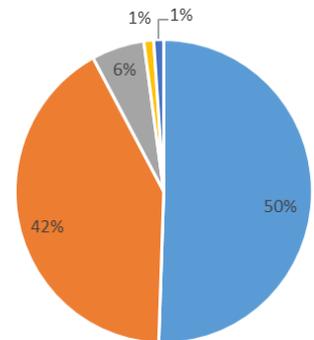
(1) 学校が楽しいですか



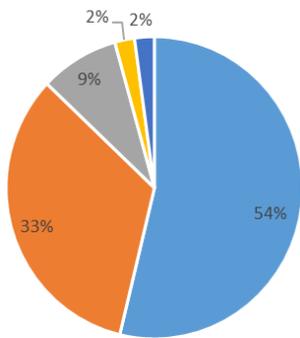
(2) 授業でおどろき・おもしろいな・たのしいと感じますか。



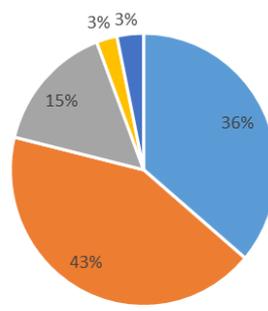
(3) 勉強はよくわかりますか。



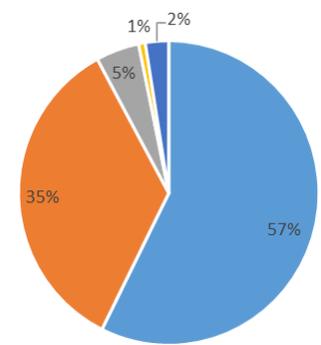
(4) 算数の勉強はよくわかりますか。



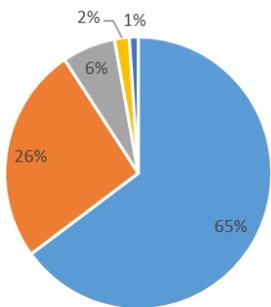
(5) 授業では、発表や友達と意見交換をたくさんしていますか。



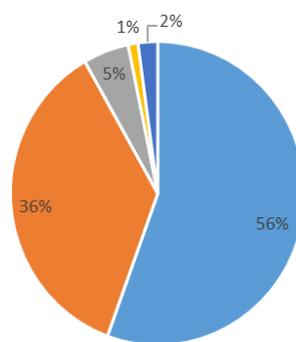
(6) 勉強のときの約束を守っていますか。



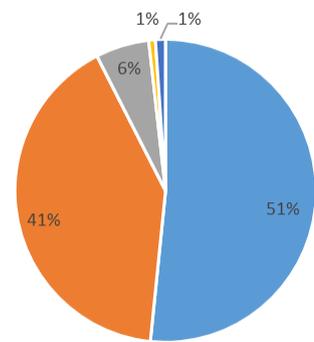
(7) ICT機器(タブレットや電子黒板)が使われることで、授業がわかりやすいですか。



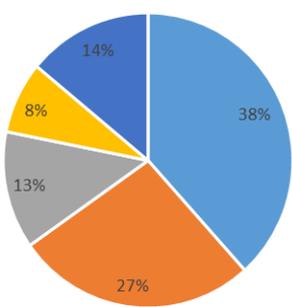
(8) 春日小の生活のきまりを守っていますか。



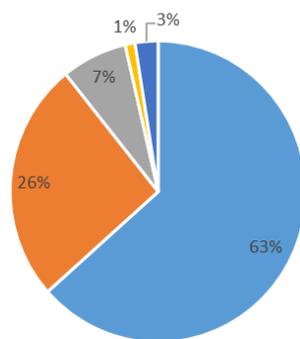
(9) あいさつやへんじができていますか。



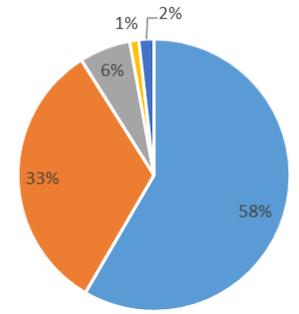
(10) 読書貯金が目標にとどきましたか。



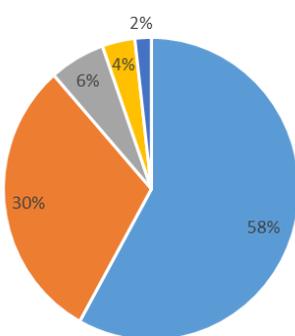
(11) 自分のクラスにいると安心できますか。



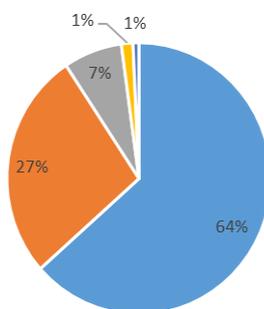
(12) 友達と仲良くしたり、友達の気持ちを考えて行動したりしていますか。



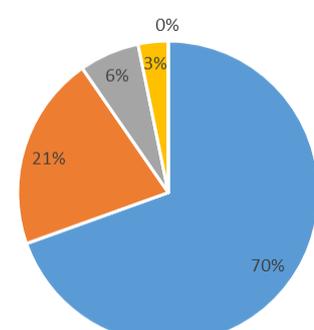
(13) 体力がついてきたと感じますか。



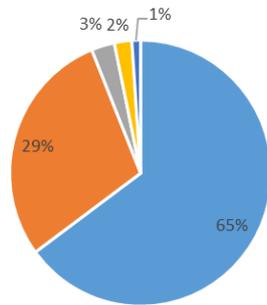
(14) 毎日元気に過ごせるように、よく寝て、ご飯をしっかり食べていますか。



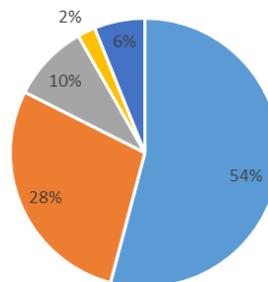
(15) 休み時間に外で遊んでいますか。



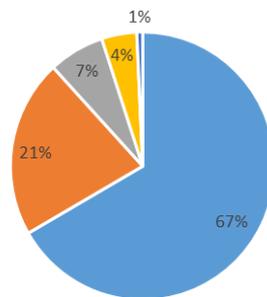
(16) 危険なことや危ないことにならないように、考えて行動していますか。



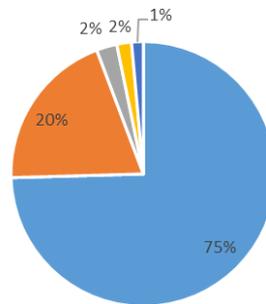
(17) 将来の夢を考えたり、いろいろな仕事をすすんでしていますか。



(18) 自分の体のために給食を食べ、できるだけ残さないようにしていますか。



(19) ゲストティーチャーなどから教えていただく機会を楽しみにしていますか。



【考察】

児童アンケートの結果を見ると、多くの項目で9割前後の児童が肯定的な回答をしています。9割ということ、大部分がプラスのイメージをもっているという解釈にもなりますが、逆に考えれば「10人のうち1人は否定的な感情をもっている」ということになります。この1割をどのように導いていくのかということも、常に考えなくてはなりません。100%の満足度が得られるというのは、学校に限らず存在することはないと思いますが、その理想の極致である「誰もが満足感を得られる場所」を模索し続けることが、私たちの使命だと感じています。現状に満足することなく、常にできる改善点を探していきます。

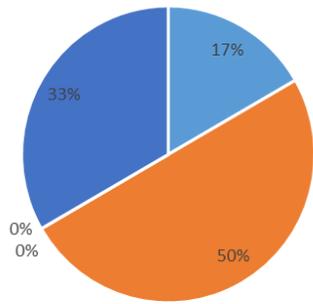
今回の結果で、「わからない」を含む否定的回答が15%以上見られた項目が、全部で3つありました。昨年度は4項目あったので、わからないを含む否定的回答は減少傾向にあると考えてよいと思います。しかし、その項目を見てみると、現状の春日小が抱える課題も見えてきます。特に大きく数値に出たのは、項目(10)の読書貯金でした。これは昨年度も同様の結果が出ています。保護者や学校など大人側は、昨年度に比べて改善してきたという感覚をもっていますが、児童の中には、まだ目標に達していないという感覚が強くある証拠です。大人が考える以上に児童の本離れが加速していると同時に、改めて「読書貯金」の目標値やカウントの仕方を見直す必要性も感じました。高すぎる目標を課すことは、意欲の減退や自信の喪失につながります。我々の願いの根底には「読書に親しむこと・本は友達と感ずること」があります。児童が本に親しんでいるという実感をもてるような取組を今後も模索していきます。

項目(5)は、個人差も大きくあると思います。こちらから見たら十分に発言していると感じても、児童の中では不十分と感じているかもしれません。また、発表はできなくても、振り返りなどのコメントでは十分に自分の考えを書いている子もいます。友達との意見交換というのも、活発に言葉を交わすことだけが意見交換ではなく、一言二言話した後に、自分の中で考えを整理するための沈黙も、意見交換には欠かせない時間です。発言の数や量だけでなく、発言の内容や意図も加味すると、児童が考える以上にできていることもあるように感じます。そういった外側の評価も積極的に伝え、児童が自分に自信がもてるようにしていくことも大切だと感じています。

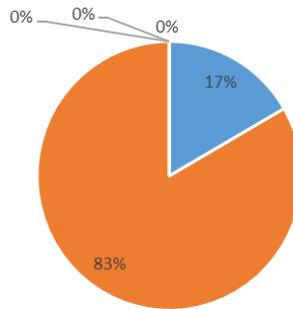
また、項目(17)も、昨年度に引き続き課題として浮き彫りになりました。しかし、保護者アンケートとの結果を比較したとき、どちらも否定的回答は多めですが、より多く感じているのは大人の側だということが分かります(保護者39%・児童18%)。子供は、大人が考えるよりも将来のことを自分なりに考えているということが見えてきました。もしかしたら、大人のほうが否定的に見すぎでしまい、子供の自己肯定感を低くし、将来への不安を煽ってしまっているのかもしれません。現代は未来が見えにくくなり、希望的な観測がもちにくくなっています。しかし、それは大人の実感であり、いつの時代も子供は未来に希望をもつ存在です。小さな子供ほど、無邪気な夢を堂々と話します。それが言えなくなっていくのはどうしてでしょうか。成長に伴い、夢と現実の違いを知ることは当然ですが、大人たちが未来を否定しすぎている影響もないとは言えないでしょう。これは学校・地域・家庭すべてで考えていくべき課題です。

3 学校評議員アンケート結果

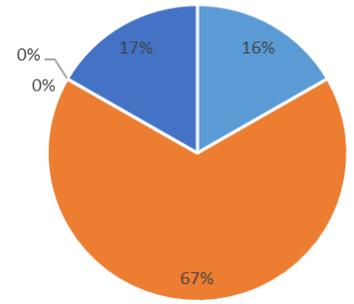
(1) 学校では、わかりやすい授業を行っている。



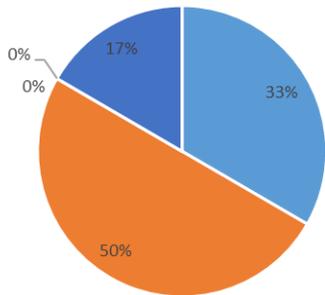
(2) 算数で、習熟度別授業（3～6年）や2人の教師による授業（1.2年）を行うことで、学習がわかりやすくなっている。



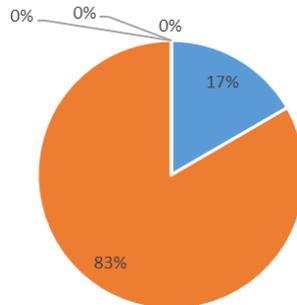
(3) 学校では授業の約束が守られている。



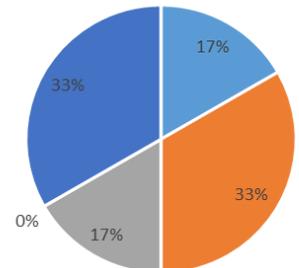
(4) 学校では、工夫した授業が行われている。



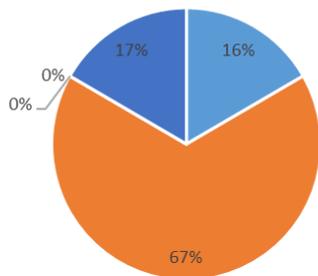
(5) 子どもは授業を通して基礎的な力を身に付けている。



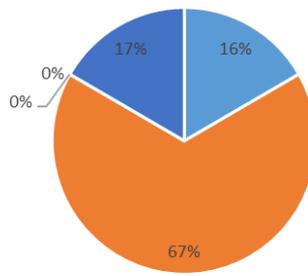
(6) ICT機器（タブレット、電子黒板等）を活用して、工夫した授業が行われている。



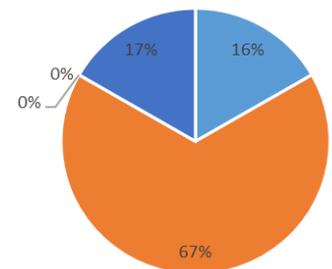
(7) 学校では、日々の授業の成果を見取り、児童への支援をし、授業をよりよくしようとしている。



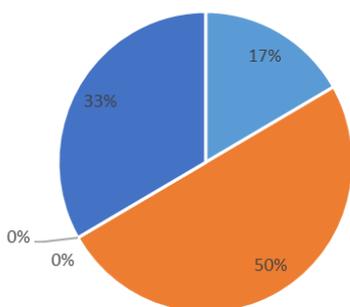
(8) 学校では発表や友達との意見交換等により、考えを深め、主体的に学習に取り組めるようにしている。



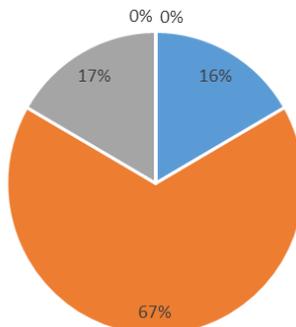
(9) 読書活動の充実を図り、感性を磨き表現力を高めている。



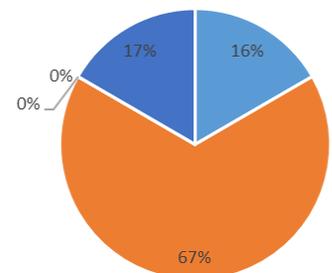
(10) 子どもは基本的な生活習慣を身に付けている。



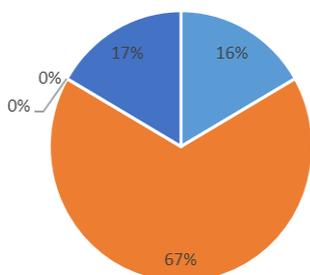
(11) 子どもは、あいさつができています。



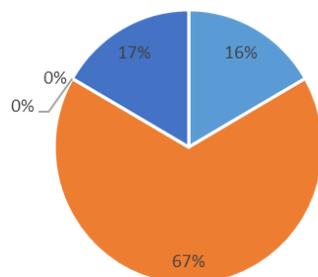
(12) 子どもは、学校や学級の一員として所属感や存在感を感じながら生活している。



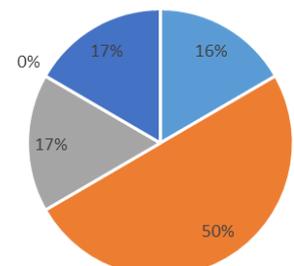
(13) 子どもに、まわりの人に対する思いやりや親切な心が育っている。



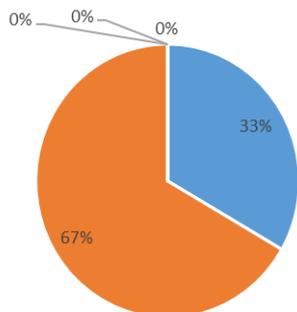
(14) 子ども一人一人を大切に指導が行われている。



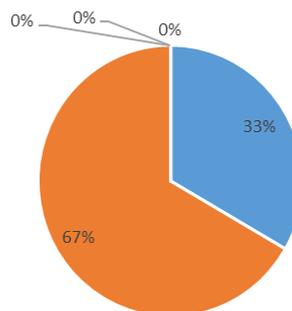
(15) 子どもは、将来の夢を考えたり、すすんで仕事に取り組んだりしている。



(16) 学校はホームページや学校公開を通して、学校や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている。



(17) 学校は、家庭や地域、外部の人材と連携した教育活動を積極的に取り組んでいる。



【学校評議員の皆様の声】

生き物の生死を通じて優しい心はかなり育まれる。ボールで思い切り遊べる場所は町内に必要だとつくづく感じる。

読書については、春日小に限らず、読書離れが取り沙汰されていますね。まず、本に興味を持ってもらう段階から始めたら良い児童もいることでしょう。校長先生の読み聴かせ、先生方、保護者の方々、図書委員さん、図書館開放指導員…読み聞かせの時の子どもたちの集中力や態度は素晴らしいです。それをきっかけに、読書へ進んで欲しいですね。

読書離れが、中学校でもあります。

今年度は、音楽会があり、観させていただきました。演奏はどの学年も素晴らしかったのですが、準備する態度もとても良かったです。テキパキと動いていて、集中していましたね。司会の先生の初々しい感じは、先生方が垣根を超えて協力し合う日常が感じられました。学校全体の環境についても、校長先生をはじめとして、先生方、職員の方々が、一体となって児童のために日々尽くしていらっしゃる様子がみられます。地域の者として、感謝いたします。

【考 察】

昨年度より学校評議員の皆様にも、保護者の皆様と同じアンケートに答えていただいています。これにより、保護者の皆様・児童アンケートとの比較がし易くなりました。また、学校評議員の皆様には、体育発表会や音楽会といった行事だけでなく、第2回目の学校評議員会ときには、日常の授業の様子も自由に見ていただきました。なかなか学校内の様子が伝わりきらない部分もありますが、リアルタイムで変化する指導の様子も見ていただけたことで、学校の生の様子を実感していただきました。こういった行事だけでなく、普段から学校はいつでも開かれた状態を作っているのも、より詳しい学校の実態を知っていただくために、学校評議員の皆様には、いつでもいらして見学していただけたら幸いです。

項目(17)に代表されるように、学校と地域のつながりについて皆様から好意的な評価をいただいたことは、大変うれしく感じます。学校は、地域とのつながりの中で存在しています。地域の特色を生かした教育を行い、この地域に愛着をもてる児童を育てることも、大切な学校の役目です。地域の皆様とのつながりを、これからも大切にしていきたいと思えます。また、項目(16)も高い評価をいただきました。学校からの積極的な情報発信は、これからの時代に欠かせない視点です。学校を知っていただくためには、学校が知らせてもらえる努力をする必要があります。相互の信頼関係を、より強固なものにしていければ幸いです。

また、否定的な回答をいただいた項目を見ると、やはりそこには、保護者・児童アンケートと共通したポイントがありました。項目(6)のICT、項目(11)の挨拶、項目(15)の将来像に関するものでした。どの角度から見ても足りないと思うからこそ出てくる意見です。しかし、違った視点で見ると、これだけ課題が明確ならば、改善すべき方向性も明確ということです。そして、出来ていることに対しては、しっかりと評価していただけているということも言えます。地域・家庭・保護者がしっかりと連携できている証拠でもあります。基本にあるこの関係をしっかりと継続し、浮き彫りになっている課題に向かっているよう、来年度以降もご協力をお願いいたします。

4 教職員自己評価

令和7年度 教職員自己評価集計結果

重点事項	評価項目		1回目	2回目
確かな学力の 定着と向上	・総合的な学習の時間、生活科を中心に、課題をもつ場면을意図的に設定する指導を行っている。	年間を通して	3.3	3.6
	・自己の学習活動を振り返り、協動的な学びを通して、学習内容を習得し、自己の考えを広げる児童を育成している。	年間を通して	3.2	3.3
	・カリキュラムマネジメントにより、言語能力、情報収集能力、既習の学習内容の活用力を育成している。	全教科、領域を通して	3.1	3.1
	・意図的・計画的に児童の学びの姿やノート、作品に温かく形成的に評価している。	年間を通して	3.3	3.4
	・学習活動の工夫と、課題意識の持続と見通しをのりたせ方を工夫している。	年間を通して	3.2	3.3
	・学習の基礎となる「規律ある学習習慣」を確立している。	6月までに基本事項を定着 以後継続指導していく	3.3	3.5
	・教師も自分事として、校内研究授業に参加し、研鑽を積んでいる。	年間を通して	3.5	3.6
	・若手(2年次・3年次研)の研究授業、春日アカデミー、校内のミニ研修会に積極的に参加している。	年間を通して	3.1	3.1
	・ICT機器を有効に活用し、効果的に学べる授業を展開する。	ICT機器を毎日活用する。	2.9	3.3
健やかな心と体の 育成	・SC、心ふれ、コーディネーター、SSWと連携し、より良い教育活動につなげている。	6月までに基本事項を定着 以後継続指導していく	3.3	3.6
	・言語環境を整え、あいざつをする児童を育成している。	6月までに基本事項を定着 以後継続指導していく	3.3	3.3
	・読書活動の充実を図り、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにしている。	年間で高学年70冊、中学年100冊、低 学年120冊の読書貯金を通やす	3.1	3.0
	・児童アンケート、児童個人面談を実施して、「いじめ」「不登校」「体罰」がなく、自己肯定感の高い児童を増やしている。	毎月「生活点検表」を実施	3.2	3.1
	・カスガモランドの充実を図り異学年交流を通して思いやり心をはぐくんでいる。	年間を通して	3.3	3.4
	・新体力テストの結果を生かし、体力の向上を図っている。	昨年度・今年度の結果を元に、体 育授業の改善実施	2.8	3.0
	・学校2020レガシーを受け、スポーツ志向の学習を展開している。	昨年度の結果を元に体育授業の 改善実施	2.3	2.5
	・休み時間、外で元気に遊ぶ習慣を定着させている。	全校一斉運動遊びの実施	3.3	3.4
	・学校安全計画に基づき、危険なことや事故から、自分の身は自分で守る子を育てている。	毎月の安全指導日に、安全指導 を実施	3.2	3.3
	・配慮を要する児童の実態を把握し、一人一人の教育ニーズに応じた指導を行っている。	年間を通して	3.2	3.4
	・将来に対する夢や希望を醸成し、望ましい勤労観を身に付ける。	年間を通して	3.0	3.1
	・給食指導等で、望ましい食習慣、食生活の実現。食品ロスを減らし、SDGsの意識化を図る。	6月までに基本事項を定着 以後継続指導していく	3.4	3.2
地域・保護 者との連携	・学習に保護者、地域や外部の人材を効果的に活用し、学習内容の充実を図る。	年5回以上	3.0	3.4
	・学校HP、学校公開で学校・学年・学級の様子を積極的に発信する。	学校公開は年に4回3時間ずつ、HP は学期に1回(校外での行事等)	2.7	2.9

4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった

【考察】

教職員の自己評価は、1学期終了後と2学期終了後に行いました。1・2学期を比較したときに、全23項目中17項目で1学期より2学期の数値が上昇していました。これは、1学期の評価を数値化したことで、自分たちの取組のどこに課題があるのか、教職員自らが自覚できたことが大きいと考えます。一方で、下降した項目が3つありました。そして、その中で最も下げ幅が大きかったのが給食指導等食生活に関する項目でした。給食指導は保護者の皆様が子供だった頃から大きく変化しています。今は、食に対して無理強いは一切しません。食べられる量なども考慮して、無理なく楽しく食べられるようにしています。しかし、一方で、「嫌い」という理由で一口も食べない児童がいることも事実です。私たちがどんなに促しても、本人が拒否すればそれ以上に指導はできません。栄養バランスや作ってくださった方々への感謝の気持ちを表すということでも、これは適切なことではありません。残食調べも、「食べられない子へのプレッシャーになる」という意見をいただきました。このように、学校でできる指導が限られてきている現実を踏まえ、ご家庭でのより一層のご指導をお願いできればと思います。

2学期で自己評価が3を下回った項目が2つありました。どれも取り組んでいないわけではありませんが、次年度に向けて教職員の意識を向上していくべきポイントです。しかし、これらは裏を返せば「まだ改善できる」という教職員の意識の表れでもあります。常に課題意識をもち、現状に満足することなく、より良い学校をつくっていけるように邁進してまいります。

5 おわりに

今回のアンケートを通して、改めて地域・保護者の皆様が、学校に対して大きな期待を寄せてくださっていることが伝わってきました。様々なご意見をいただいたことも、信頼の証ととらえています。保護者の皆様から頂いた自由記述は、全て目を通したうえで、学校内では全てに対して校内共通の回答を作成しています。肯定的な声もたくさんいただき、私たちの大きな励みになりました。紙面の関係上、全てを紹介することができませんが、今後の学校教育を進めるうえでの大切な声として受け止めております。これから先も、良いこともそうではないことも、しっかりと意見交換をしていける関係の継続を目指していきます。今後とも、学校の教育に対し、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。